

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970900161		
法人名	医療法人忠友会		
事業所名	グループホーム武田の里		
所在地	荏崎市神山町北宮地8番地		
自己評価作成日	平成23年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人として、診療所・デイケア・訪問介護・看護・居宅支援事業所などを併設している。周囲には田園風景が広がり、自然環境に恵まれている。住宅などが少ない為、地域住民との交流が少ないが、定期的に地元の高校生との交流会などを行っている。利用者の思いや「その人らしさ」を大切に、職員が一体となり、日々の支援や生活の改善に前向きに取り組んでいる。多機能な事業所としての特性を活かし、さらに地域に密着したサービスが提供できるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地域の中に立つ2階建ての落ち着いたホームである。周囲は車の往来も少ないのでゆったりと外気浴や散歩が出来る環境である。開設から6年が経ち利用者は重度化してきたが、クリニックや通所リハビリテーション・訪問看護などの事業所が併設されている事は利用者や職員にとって大きな安心となっている。「その人らしさ」を基本理念に個々の利用者に合わせて対応をしている。3か月毎に発行している「武田の里だより」はホームの活動状況や取り組みがとても細かく書かれていて利用者の生活の様子がよく分かる。定期的に地域のケアマネジャーとの研修・交流があり参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホーム武田の里

[セル内の改行は、(Altキー) + (

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所玄関内に運営理念を掲示したり、ミーティングなどで管理者・職員とも理念を共有して実践できるように努めている。	事業所玄関内に運営理念を掲示したり、ミーティングなどで管理者・職員とも理念を共有して実践できるように努めている。	「その人らしく」を基本理念とし、持っている力を活かしながら一人ひとりの今までの生活ペースが継続出来る様な支援をしている。毎月の合同ミーティングでもそのことを認識し話し合いをしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の福祉まつりに参加したり、年に数回地域の高校生との交流の機会を設けている。また、運営推進会議を通じて民生委員や家族との連携を深めている。	地域の福祉まつりに参加したり、年に数回地域の高校生との交流の機会を設けている。また、運営推進会議を通じて民生委員や家族との連携を深めている。	田園地域の中にあり民家は少ないが、天気の良い日は散歩に出て会う人と挨拶を交わしている。すぐ近くの中学生が、「職場体験」に訪れている。婦人部や老人クラブへの働きかけも検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市で設置した認知症ネットワークの活動に参加し、入居者以外にも地域で認知症で困っている方や家族の相談に乗れる体制を作っている。	市で設置した認知症ネットワークの活動に参加し、入居者以外にも地域で認知症で困っている方や家族の相談に乗れる体制を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	市の介護保険担当や地域包括支援センターの方にも協力していただき、サービス改善への助言をいただいたり、困難な事例を皆で話し合うことで解決に向けた努力をしている。	市の介護保険担当や地域包括支援センターの方にも協力していただき、サービス改善への助言をいただいたり、困難な事例を皆で話し合うことで解決に向けた努力をしている。	家族の代表は、1年を任期として参加している。インフルエンザの感染予防のアドバイスや、市からはスプリンクラーの設置についての助言を頂いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や地域包括支援センターにグループホームだよりを届けて活動報告をおこなったり、情報交換を行なう事で協力体制を築いている。	市や地域包括支援センターにグループホームだよりを届けて活動報告をおこなったり、情報交換を行なう事で協力体制を築いている。	3か月毎に発行する「武田の里だより」には、日頃の取り組みを細かく載せて配布している。介護保険の更新申請時には状況を話している。日常的に交流の機会を持っている	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行なわないように心がけている。やむをえない場合にあっては本人・家族同意のもとで行なう事としているが、現在は該当者がいない。夜間は玄関の施設はしている。	身体拘束は行なわないように心がけている。やむをえない場合にあっては本人・家族同意のもとで行なう事としているが、現在は該当者がいない。夜間は玄関の施設はしている。	外部で研修してきた事を、ミーティングの機会に伝え何が拘束になるのか再認識している。ホームの回りは安全な環境にあり、玄関は常に開放されている。スピーチロックについても意識して声かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員ともに虐待の防止に努めている。虐待につながる恐れがあるケースに気づいた時には、地域包括支援センターにも相談を行うようにしている。	管理者・職員ともに虐待の防止に努めている。虐待につながる恐れがあるケースに気づいた時には、地域包括支援センターにも相談を行うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の一部は研修などに参加したことがあるが、現状では制度の利用者がいない。今後も研修があれば参加したいと考えている。	職員の一部は研修などに参加したことがあるが、現状では制度の利用者がいない。今後も研修があれば参加したいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約内容について十分説明をおこなっている。また、個々の状況についてアセスメントを行い介護計画を作成し、利用者・家族に説明を行い、理解・納得をしていただいている。	契約内容について十分説明をおこなっている。また、個々の状況についてアセスメントを行い介護計画を作成し、利用者・家族に説明を行い、理解・納得をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	モニタリング結果、近況報告を郵送して普段の様子を知っていただき、意見や要望があれば問い合わせさせていただいている。また、玄関に意見箱を設けたり、面会時にこちらからも尋ねるようにしている。	モニタリング結果、近況報告を郵送して普段の様子を知っていただき、意見や要望があれば問い合わせさせていただいている。また、玄関に意見箱を設けたり、面会時にこちらからも尋ねるようにしている。	日頃から気軽に話が出来そうな関係づくりが心がけている。「クローゼットや車椅子の調整」「散歩やリハビリの機会を多くして欲しい」などの声もあり対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、事務局・管理者・職員の合同ミーティングを開いている。出された意見や提案について必要な事柄については、運営に反映するようにしている。	月に1度、事務局・管理者・職員の合同ミーティングを開いている。出された意見や提案について必要な事柄については、運営に反映するようにしている。	勤務の変更や物品・食材の購入などについても可能な限り受け入れている。ミーティングや日常的にも意見を出しやすい状況である。	話した事やアドバイスなどの機会は多いが記録が少ない。研修・行事を含めた年間の事業計画や報告、また、「ヒヤリ・ハット」の検討記録などの整備を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準については就業規則で定められているが、現況においては規定上の昇給などは困難である。有給休暇等はとりやすい環境にある。資格取得や研修参加予定時は勤務シフトの考慮も可能である。	給与水準については就業規則で定められているが、現況においては規定上の昇給などは困難である。有給休暇等はとりやすい環境にある。資格取得や研修参加予定時は勤務シフトの考慮も可能である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の予定や資格の講座などがある場合、回覧により職員に周知し、参加を促している。	研修の予定や資格の講座などがある場合、回覧により職員に周知し、参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の認知症ネットワークや、県のグループホーム協会などで同業者と交流しているほか、2か月に1度程度、市の介護支援専門員の集まりや支部会などに参加し、情報交換などを行っている。	市の認知症ネットワークや、県のグループホーム協会などで同業者と交流しているほか、2か月に1度程度、市の介護支援専門員の集まりや支部会などに参加し、情報交換などを行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に医師・管理者・介護支援専門員が本人の不安や要望などについて相談に乗っている。必要に応じて入居前にも家庭での過ごし方や、他サービス利用時の様子も確認している。	入居時に医師・管理者・介護支援専門員が本人の不安や要望などについて相談に乗っている。必要に応じて入居前にも家庭での過ごし方や、他サービス利用時の様子も確認している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけでなく、家族の不安や困りごとについても耳を傾けている。入居後も家族の状態について、できるだけ配慮を行い、お互いに信頼できるように連絡を取り合うよう心がけている。	本人だけでなく、家族の不安や困りごとについても耳を傾けている。入居後も家族の状態について、できるだけ配慮を行い、お互いに信頼できるように連絡を取り合うよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	隣接する診療所や居宅介護支援センターとも連携しながら、必要に応じてクリニックでのリハビリへの参加などにも対応している。	隣接する診療所や居宅介護支援センターとも連携しながら、必要に応じてクリニックでのリハビリへの参加などにも対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれに役割を持っていただき、職員と一緒に共同で作業をしたり、支えあう環境を作れるようにと考えている。ただし、利用者の心身状態が重度化してきていることもあって、難しいことも増えてきている。	利用者それぞれに役割を持っていただき、職員と一緒に共同で作業をしたり、支えあう環境を作れるようにと考えている。ただし、利用者の心身状態が重度化してきていることもあって、難しいことも増えてきている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会・外出・外泊などを依頼したり、イベントやボランティアへの参加をしていただくことで、共に支援していただけるように働きかけている。	面会・外出・外泊などを依頼したり、イベントやボランティアへの参加をしていただくことで、共に支援していただけるように働きかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	全員ではないが、友人・知人が面会にみえたり、馴染みの美容院に出かけたり、町内会の会合に参加したい方などには自由に参加していただいている。	全員ではないが、友人・知人が面会にみえたり、馴染みの美容院に出かけたり、町内会の会合に参加したい方などには自由に参加していただいている。	お茶にこだわり自分のお茶を使う人や無尽会を継続している利用者もいる。農作業に慣れ親しんできた人は周囲の稲の成長を楽しむなど「その人らしく」生活出来る支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関係が、支え合えるような支援に努めている	リビングの座席の配置はそれぞれの関係に配慮し話しやすい環境にしている。利用者同士のコミュニケーションが極めて困難な方については、できるだけ職員が関わりを持ちながら対応している。	リビングの座席の配置はそれぞれの関係に配慮し話しやすい環境にしている。利用者同士のコミュニケーションが極めて困難な方については、できるだけ職員が関わりを持ちながら対応している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居時の相談・援助を行なっている。また、今のところその機会は少ないが、必要に応じて退居後であってもサービス担当者会議などに出席し、支援を行うことも可能である。	退居時の相談・援助を行なっている。また、今のところその機会は少ないが、必要に応じて退居後であってもサービス担当者会議などに出席し、支援を行うことも可能である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と会話を交わしながら意向の把握に努めている。意志の疎通が難しい方については、家族に尋ねたり、本人にとって過ごしやすい環境を検討しながら提供できるよう配慮している。	本人と会話を交わしながら意向の把握に努めている。意志の疎通が難しい方については、家族に尋ねたり、本人にとって過ごしやすい環境を検討しながら提供できるよう配慮している。	ケアプラン作成時や日常の関わりの中で把握している。帰宅願望の利用者は、散歩や声かけの工夫などその時々状況をつかみ安心が出来る対応をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活を尋ねたり、他サービスを利用されていた場合には、様子を伺いに行ったりしている。	入居時にこれまでの生活を尋ねたり、他サービスを利用されていた場合には、様子を伺いに行ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式などのシートを活用したり、部屋ごとの担当者を決めて対応している。	センター方式などのシートを活用したり、部屋ごとの担当者を決めて対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・担当職員との定期的な話し合いや、医師・理学療法士からアドバイスももらったりしながら定期的にモニタリングを行い、その結果を介護計画に反映している。	本人・家族・担当職員との定期的な話し合いや、医師・理学療法士からアドバイスももらったりしながら定期的にモニタリングを行い、その結果を介護計画に反映している。	3か月に1度計画の評価を家族に送っている。本人や家族の意向を聞き、それらをもとにして全職員で検討しケアマネジャーがプランを作成する。プランに沿って支援を行い大きな変化がなければ3か月後に、また、評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ごとに記録を作成し、日々のケアや計画作成の参考にしている。	利用者一人ごとに記録を作成し、日々のケアや計画作成の参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望に応じて隣接するクリニックにてリハビリテーションや受診などが行なえるようにしている。	希望に応じて隣接するクリニックにてリハビリテーションや受診などが行なえるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源と協働できるように心がけているが、全員が活用できているわけではない。	地域資源と協働できるように心がけているが、全員が活用できているわけではない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	できるだけ入居前のかかりつけ医に診ていただいている。受診の際には家族に協力していただいたり、場合によっては職員も対応している。	できるだけ入居前のかかりつけ医に診ていただいている。受診の際には家族に協力していただいたり、場合によっては職員も対応している。	併設のクリニックはあるが、基本的には慣れている今までのかかりつけ医としている。受診は家族とのふれあいの機会と捉えて可能な限りは家族に対応してもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日ではないが看護職の経験のある職員が体調を観察したり、緊急時には隣接する診療所の医師や看護師、訪問看護師にも協力してもらっている。	毎日ではないが看護職の経験のある職員が体調を観察したり、緊急時には隣接する診療所の医師や看護師、訪問看護師にも協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の様子を確認に行ったり、退院に備えての情報交換を行なっている。	入院中の様子を確認に行ったり、退院に備えての情報交換を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の方針としてハッキリと掲げているわけではないが、ターミナルケアを行なったこともあり、現在も重度化が進んでいるため、終末期に合わせた対応を行なっている方もいる。	事業所の方針としてハッキリと掲げているわけではないが、ターミナルケアを行なったこともあり、現在も重度化が進んでいるため、終末期に合わせた対応を行なっている方もいる。	看取りケアを行った事もある。併設にクリニックや訪問看護ステーションもあるが、本来のグループホームの機能として、他の利用者との関係も考えてどうなのか思案している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中は隣接する診療所の医師・看護師と協働しているが、夜間については難しい。急変時に迅速な対応ができるように、連絡体制は整えている。	日中は隣接する診療所の医師・看護師と協働しているが、夜間については難しい。急変時に迅速な対応ができるように、連絡体制は整えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練などはおこなっているが、回数が少なく地域の方の協力はほとんど得られていない。消防本部の方にアドバイスなどをいただいている。	防災訓練などはおこなっているが、回数が少なく地域の方の協力はほとんど得られていない。消防本部の方にアドバイスなどをいただいている。	スプリンクラーの設置もあり、IH調理器を使用している。民家も離れているので出火の心配は少ない。避難訓練しているが夜間2階の利用者を安全に避難させられる方法についても検討している。	特に夜間の災害時は職員の冷静な対応が必要である。いろいろな場合を想定しての訓練を実施する事で避難の誘導方法が見つかり職員全員がそれを習慣化出来る事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉のかけ方に気をつけながらケアしている。個人情報が含まれる話題などについては、利用者のいない場所でおこなうようにしている。	言葉のかけ方に気をつけながらケアしている。個人情報が含まれる話題などについては、利用者のいない場所でおこなうようにしている。	名前は苗字で呼ぶようにしている。耳の遠い人は近くで話しをする。排泄や入浴時にはプライバシーが守られる様に配慮している。親しみの持てる範囲の方言については使っている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行なう場合には参加を強制せず、本人に決定していただいたり、着たい服を選んでもらったりしている。	何かを行なう場合には参加を強制せず、本人に決定していただいたり、着たい服を選んでもらったりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できるだけ本人のペースを尊重しているが、極端に部屋に閉じこもってしまう場合には、無理のない範囲で他者との交流をすすめる場合もある。	できるだけ本人のペースを尊重しているが、極端に部屋に閉じこもってしまう場合には、無理のない範囲で他者との交流をすすめる場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通い慣れた美容院へ行っていただいたり、希望に応じて併設デイサービスの方と一緒に理容師に散髪してもらうこともできる。希望の服などがある場合には、家族に購入を依頼している。	通い慣れた美容院へ行っていただいたり、希望に応じて併設デイサービスの方と一緒に理容師に散髪してもらうこともできる。希望の服などがある場合には、家族に購入を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望の品を行事食にしたり、キザミやトロミなどについても対応しているほか、栄養摂取が難しくなっている方には好きだったプリンなどを召し上がっていただくなど、できるだけ食事が楽しめるようにしている。	利用者の希望の品を行事食にしたり、キザミやトロミなどについても対応しているほか、栄養摂取が難しくなっている方には好きだったプリンなどを召し上がっていただくなど、できるだけ食事が楽しめるようにしている。	栄養士が併設の事業所と同じように献立を作成している。好きなものアンケートを行ったが、答えられる人は少なかった。回転寿司などで外食したり、市販の物を購入して来て食べるなどの楽しみの機会を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設事業所の栄養士に協力していたが、バランスが取れるように心がけている。また、毎日の水分摂取量を記録し、受診の際には医師にも診断の参考にさせていただいている。	献立は併設事業所の栄養士に協力していたが、バランスが取れるように心がけている。また、毎日の水分摂取量を記録し、受診の際には医師にも診断の参考にさせていただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きや入れ歯の洗浄などを促している。	歯磨きや入れ歯の洗浄などを促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりのパターンを把握しながらトイレ誘導をおこなったり、夜間のトイレが多い方にはポータブルなども併用してもらっている。	一人ひとりのパターンを把握しながらトイレ誘導をおこなったり、夜間のトイレが多い方にはポータブルなども併用してもらっている。	トイレやポータブルトイレの排泄援助を進めている。排泄の失敗があっても安易におむつにしないよう個別の排泄援助をしている。18名中常時おむつを使っている人はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	整腸作用のある飲食物の摂取を促したり、身体を動かす機会を設けたりしている。毎日の排便の有無をチェックしながら、便秘が長く続いている方には適切な内服なども促している。	整腸作用のある飲食物の摂取を促したり、身体を動かす機会を設けたりしている。毎日の排便の有無をチェックしながら、便秘が長く続いている方には適切な内服なども促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前・午後どちらでも可能ではあるが、介助量が多い方もいて、すべて希望通りにすることは困難である。また、体調の変化に備えて隣接する診療所の医師が滞る時間にさせていただいている。	午前・午後どちらでも可能ではあるが、介助量が多い方もいて、すべて希望通りにすることは困難である。また、体調の変化に備えて隣接する診療所の医師が滞る時間にさせていただいている。	入浴拒否の人も時間を置いたり、介助者を変えるなどの工夫をしている。個浴は1人介助であるが、リフト浴は2人で行っている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、休憩時間をとっていただいたり、夕方個人生活パターンに応じて自由に休んでいただけるようにしている。安眠できるよう、個人の希望に応じて寒い時期は湯たんぽや電気毛布なども使用できる。	日中、休憩時間をとっていただいたり、夕方個人生活パターンに応じて自由に休んでいただけるようにしている。安眠できるよう、個人の希望に応じて寒い時期は湯たんぽや電気毛布なども使用できる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容に変更があった場合や、特に用法に注意を要する薬についてはその旨を確実に職員に伝えられるように心がけている。	服薬の内容に変更があった場合や、特に用法に注意を要する薬についてはその旨を確実に職員に伝えられるように心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を活かした楽しみを作ったり、役割と一緒に持ってもらえるようアプローチしている。ただし、重度の方も増えてきて難しい側面もある。	趣味を活かした楽しみを作ったり、役割と一緒に持ってもらえるようアプローチしている。ただし、重度の方も増えてきて難しい側面もある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員と一緒に散歩に出かけたり、家族と買い物や外食に行っていたるように働きかけている。	職員と一緒に散歩に出かけたり、家族と買い物や外食に行っていたるように働きかけている。	車椅子の利用者が多くなっているが、天気の良い日はテラスで外気浴を行っている。年間を通してお花見や定期的な地域のイベントには参加している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状では自由に外出してお金を使う機会がほとんどないので、特別な支援はしていない。	現状では自由に外出してお金を使う機会がほとんどないので、特別な支援はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの申し出があれば、家族の負担にならないように頻度や時間などに配慮しつつ、電話をかけていただいている。携帯電話の使用も自由である。また、手紙などが届いた場合には返信を促しているが、難しい。	利用者からの申し出があれば、家族の負担にならないように頻度や時間などに配慮しつつ、電話をかけていただいている。携帯電話の使用も自由である。また、手紙などが届いた場合には返信を促しているが、難しい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるように配慮している。折鶴や学生からプレゼントしていただいた作品を飾ったり、明るい空間になるように努めている。	落ち着いて過ごせるように配慮している。折鶴や学生からプレゼントしていただいた作品を飾ったり、明るい空間になるように努めている。	玄関や居間は明るく職員の育てた花が置いてあり、テーブルやいすなどが使いやすい様に配置されている。玄関は開放され、日当たりの良いテラスは利用者の憩いの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い方と近い席を用意したり、車イスが動きやすいように基本の座席を設定しているが、その日その時の本人の希望でどこで過ごしても自由である。	仲の良い方と近い席を用意したり、車イスが動きやすいように基本の座席を設定しているが、その日その時の本人の希望でどこで過ごしても自由である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具や布団を持ち込んでいただいたり、和室に慣れている方には畳を敷いたりしている。	自宅で使っていた家具や布団を持ち込んでいただいたり、和室に慣れている方には畳を敷いたりしている。	大きなクローゼットが用意されていてきちんと整頓されている。家具や身の回りの物は全て自由に持ち込んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1F すみれ)	ユニット名(2F さつき)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー環境で安全を確保しているほか、所々に手すりなどを設置し、自立して動作ができるような環境を提供している。	バリアフリー環境で安全を確保しているほか、所々に手すりなどを設置し、自立して動作ができるような環境を提供している。		